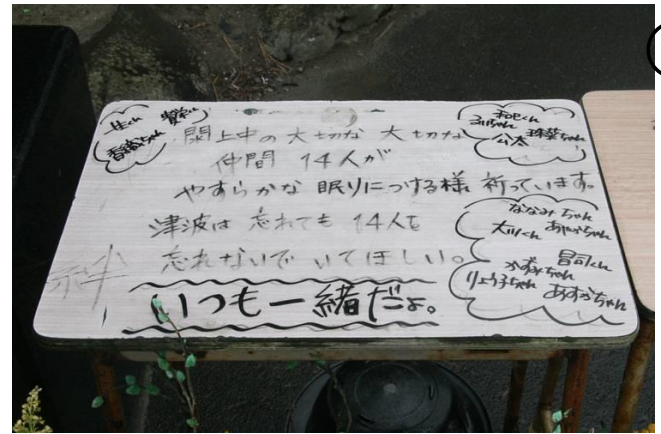




「14輪のチューリップ」

※「閑上の記憶」でいただいたポストカードより



「閑上中学校」慰霊碑そばの机にあるメッセージ

※2013年3月31日撮影（現在は文字が薄くなってきている）

慰霊碑そばの机には、犠牲になった中学生の名前とともに、メッセージが添えられています。

「津波は忘れても、14人を忘れないでいてほしい。いつも一緒だよ。」

大切な人を亡くした方だからこそ湧き出てくる感情であると思いました。

（「東日本大震災」の被災地、名取市閑上地区で学んだこと）

- (1) **震災で犠牲になった人には「明日」という日がやって来なかった。**
⇒誰もが当然やってくると思っている「明日」が、震災によって突然奪われた人がいる。
「今」を生きることができる私たちは、毎日を大切に、亡くなった人の分まで一生懸命に生きていかなければならない。
- (2) **自然は、人間の想像をはるかに超えた現象を起こす。**
⇒ある程度、事前に想定することは大切だが、人間の想像力は完全なものではない。
人間は、自分の想定が完全なものであるという勘違いをしている。
「事前の想定」が根拠のない安心感へとつながり、身を守ることができなくなる。
- (3) **「勝手な思い込み」が、命を守る行動を妨げる。**
⇒名取市閑上地区では、牡鹿半島より南に津波は来ないという思い込みがあった。
事実、過去150年間には牡鹿半島より南に被害を与える津波は来ていない。
（牡鹿半島より北の三陸海岸は数回にわたり、津波の被害を受けている。）
⇒万一、名取市に津波が来たとしても、海側にある貞山運河を越えることはないという思い込みがあり、避難行動が遅れて犠牲になった人がいる。
- (4) **現代社会における停電の恐ろしさ。**
⇒情報網が完全に遮断され、事態の把握ができない。防災無線なども使用不可能となる。
- (5) **避難方法（徒歩／自動車）により、運命が大きく変わる。**
⇒震災発生直後は、停電で信号が機能していなかったことや、交通事故のため渋滞が発生。
- (6) **過去の出来事から学ぶべきである。歴史は必ず繰り返す。**
⇒人間は未来への想定は一生懸命に行うが、過去の出来事から学ぼうとしない。
⇒自分にとって「都合のよい」「役に立つ」ことだけに目を向けてはいけない。
例えば、自分の興味関心に関わらず「文系」「理系」両方について学ぶ必要がある。
- (7) **今は「震災後」ではなく、次の「震災前」である。**
⇒残念ながら、歴史は繰り返す。地震や巨大津波も必ず発生する。
今回の「東日本大震災」を語り継ぐことが、未来における悲劇をなくすことになる。
- (8) **「閑上」という地名そのものが、過去に津波が来ていたことを伝えている。**
⇒市町村合併などで、消え行く地名があるが、地名は先人たちが後世に残した貴重なメッセージであると言える。
- (9) **生きているからこそ、辛いこと、苦しいことも経験する。**

名取市閑上地区で「東日本大震災」に関する研修を行った後は、ホテルに戻ってスキー・スノーボードのウェアに着替え、同じく蔵王町にある「えぼしスキー場」でスキー・スノーボードに挑戦しました。スキー・スノーボードの様子については「第3日（1月29日（木））」のところでまとめて報告いたします。

けがのために残念ながらスキー・スノーボードをできない生徒は、引き続き「東日本大震災」の被災地を訪問しました。訪問したのは、宮城県南三陸町と石巻市釜谷地区にある大川小学校です。

ご存知のとおり、南三陸町では甚大な津波被害が発生し、津波警報発令後、最後まで防災庁舎に残って避難を呼びかけ犠牲になった女性職員の話が有名です。大川小学校では、適切な避難行動をとることができず、全校児童の7割以上が津波によって犠牲になっています。

南三陸町では、最初に「南三陸さんさん商店街」を訪れました。南三陸町は「東の志津川、西の明石」と言われるほどに有名なタコの産地であり、また、1960年の「チリ地震津波」が縁となって、町には「モアイ像」の姿が見られます。タコやモアイ、海産物のイクラなどを模したキャラクターが、「南三陸さんさん商店街」を盛り上げていました。

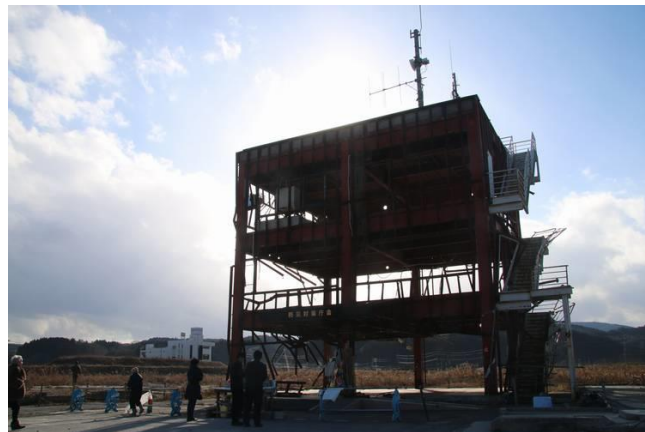
次に、津波の被害を受けた「南三陸町防災庁舎」と「JR清水浜駅」を視察し、「南三陸ホテル観洋」にて震災直後の様子を3D映像で視聴しました。



「南三陸さんさん商店街」



「JR志津川駅」 ※バスが鉄道の代替である



「南三陸町防災庁舎」



「JR清水浜駅」 ※ほぼ震災直後のままである

大川小学校では、被災した校舎を視察しました。そばを流れる北上川の下流から津波が迫る恐怖を想像し、なぜ校舎のすぐ近くにある山に避難することができなかったのか、当時、複雑に絡み合っていたであろう様々な要因について考えました。これについて結論を得ることは容易ではありませんが、今後、同じ悲劇を繰り返さないためにも、今を生きることができる私たちは、大川小学校で起きた現実に向き合う必要があるのだと思います。仮に「あの日」、私自身が大川小学校の職員であったとして、適切な避難誘導ができたかどうかは自信がありません。だからこそ何度もこの地を訪れ、「命を守るために最優先すべきこと」を常に考えていきたいと思っています。



「大川小学校」 ※慰霊碑には常に新しい花が供えられていて、我が子を大切に思う気持ちが伝わってくる

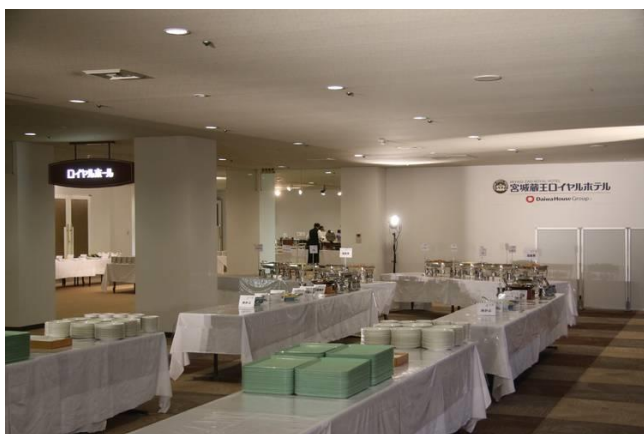
「宮城蔵王ロイヤルホテル」に戻って夕食後、ホテルの総支配人様が震災当日のことについて話してくれました。蔵王町では震度6強を観測し、実際は3分ほどであった揺れが、5分以上続いているように感じられたということで、経験のない出来事に対し強い不安を抱かれていたことが伝わりました。ホテルではシャンデリアなどの設備に被害が出たものの、幸いにも宿泊客・従業員にけが人は出なかったということです。しかしながら安全を確保するために、その日は宿泊客もロビーで夜を明かしたそうです。

食料に関しては、相当量の備蓄があったので問題なかったものの、水の確保に苦労したそうです。このようなことも含め、災害時に危機を乗り切るためには、日頃からの助け合いや、近隣との良好なつきあいが大切だという話も聞くことができました。ごく当たり前のことだと思われそうですが、実際に震災を経験した方から伝えられるこの言葉には、非常に重みがありました。

最後に、「今は震災後ではなく、次の震災前である」という話もされました。過去の教訓に学び、いつ、どこで自然災害が発生しても「命を守る行動」をとることができるように、これからも私たちは意識を高く持って学び、考えていかなければならないと思います。

宮城県のお土産は、この日に購入しました。ホテルの売店には魅力的なお土産が多く並んでいて、生徒たちは一生懸命になって買うものを選んでいました。出発前、私が事前に宿泊した際に撮影したお土産をいくつか紹介していたのですが、その中の一つ「ゴルゴ13」の宮城県バージョンは、完売していました。お土産選びも旅行の楽しみの一つではありますが、今回は東北地方でのお買い物ということで、ほんの少しかもしれませんが、被災地のお役に立つこともできたのではないのでしょうか。

お土産の購入とともに、東北への修学旅行の思い出が少しでも深まってくれば何よりです。



食事会場入口付近の様子



お土産の一例

＜第3日（1月29日（木））＞ ※天候：晴れ

第3日は、朝食後すぐにスキー場へ向かい、昼休みを挟んで13時までスキー・スノーボードを行いました。けがでスキー・スノーボードができない生徒は「みやぎ蔵王こけし館」へ行き、「こけし」の絵付けなどを体験しました。「こけし」は蔵王町遠刈田温泉で有名な伝統工芸品です。